

すべての盲人に福音を！ キリスト教良書を！

2010年10月

# ホ・ロゴス 45号



## ὁ λόγος

ホ・ロゴスとは？

ギリシヤ語で「言葉」という意味。英語に言い換えると、“The Word”。このタイトルは、静岡盲人伝道センター広報誌第2号(1969・11月発行)から使われた。この「言葉」は、ヨハネによる福音書の「初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。」から引用された。

## すべての盲人に福音を伝えるために

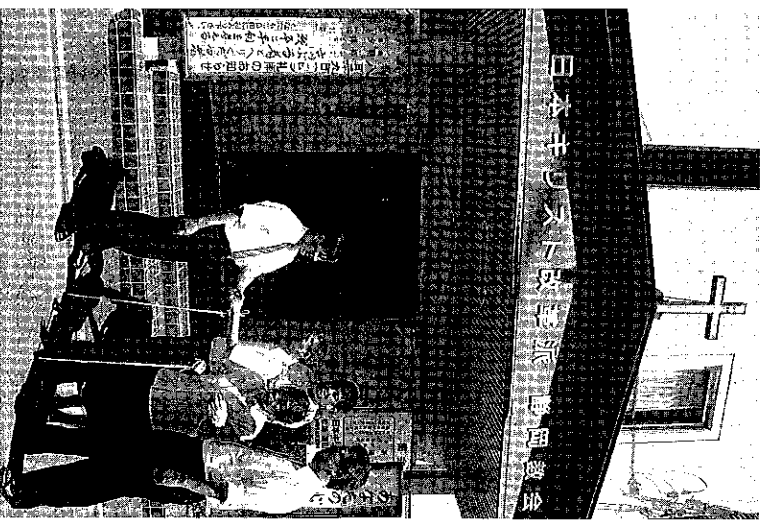
静岡教会牧師 遠山信和

世の中の有様は、どんどん移り変わります。私たちの暮らしもさまざまな出来事が起こりますが、変わることもない神の御手の中で、多くの方々の尊いご協力とご奉仕に今日も支えられ、静岡盲人伝道センターの働きができますことを、心より感謝いたします。

神様は、「すべての人に福音を伝えよ」(マルコ16:15)と言われましたが、盲人の方々は、そのままでは印刷された聖書や書物を読むことができません。盲人の方々に伝道するためには、どうしても、キリスト教の書籍などを音訳や点訳をして、提供していくことが必要になります。

残念ながら、日本各地にある点字図書館は、キリスト教の書籍をほとんど扱っていないのが実情で、点字(点訳)と音声(音訳)の両方を兼ね備えたプロテスタントのキリスト教点字図書館は、当館のほかにはありません。

一冊の活字書が点訳・音訳図書になるまでには、当館と点訳者または音訳者として校正者の三者間を何回も往復します。音訳



の場合はこれにデジタル化の作業が加わり、多くの時間をかけて初めて完成されるのです。

現在、キリスト教関係の月刊誌や良書が、全国のボランティアの方々のご尊い奉仕によって点訳や音訳され、盲人の方々に無料で提供されております。

今後の活動のためにも、みなさま方の深いご理解、熱いお祈りとご支援を心からお願い申し上げます。



静岡盲人伝道センター広報誌『ホ・ロゴス』第45号 2010年10月発行

発行人：青山昭一郎 印刷所：ワークホーム聖恵

発行：静岡改革派キリスト教盲人伝道センター

〒422-8041 静岡市駿河区中田1-5-21

TEL 054-285-0496 FAX 054-285-0746 振替 00870-2-7003

Eメール：shizumouden@mail.wbs.ne.jp

<http://www.wbs.nc.jp/cmt/shizumouden>

開館時間：祝日等を除く月曜日から金曜日、午前9時～午後5時

## 多くの方々の支援で 発展してきました

静岡改革派キリスト教盲人伝道センターは教会に付属する「点字図書館」と「盲婦人ホーム」の施設を持ち、地道な活動を続けています。今から40年ほど前に、中途失明の青山輝徳牧師が中心となって、目の不自由な信徒たちが、学び、生活できる施設を目標に開設しました。創設から軌道に乗るまでは、厳しい道程でしたが、幾多の試練を乗り越え、現在の形になりました。今回は、発足当時の様子を中心にご紹介します。

### 初めのころ

創設者の青山牧師は、太平洋戦争の時に横浜高等(横浜国立大学工学部)の学生でしたが、アメリカ軍が横浜空襲で落とした爆弾を調べているうちに爆発、失明しました。母親の懸命な看病によって、生死の境から抜け出すことができました。

当時、盲人の地位は低く、青山さんは生きる気力も失いそうな失望の中にいました。その時、ヨハネによる福音書9章の、盲人の目が見えないのは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」のみ言葉に出会いました。このみ言葉に勇気づけられ、青山さんは牧師になりました。

1953年から静岡市内で伝道を開始し、多くの盲人を入信に導きました。青山牧師は増える盲信徒の前に、教会堂の建設が必要と考えるようになりました。また、盲学校を卒業した若者の働く場の確保も課題で、その表現へのチャレンジが始まります。

教員たちの懸命の献金や外人宣教師などの協力もあって、計画は少しずつ前進し、1962年に、わずか5坪ほどの「盲婦人ホーム」が完成しました。同時に、寄託された200冊余のキリスト教の点字図書館資料のある「点字図書館」としての機能も持つようになりました。しかし、資金不足で本格的な活動までには至りませんでした。



テーアのダビソクをするセンター開設当時の青山牧師  
(1970年ころ)



点字書の校正をするセンターの人たち

### 多くの支援が寄せられる

やがて、この活動に対して、各地の教会や信徒から多くの支援が寄せられるようになりました。これに助けられ、1968年の10月に正式に「盲人伝道センター」を発足させ、「点字図書館」と「盲婦人ホーム」を持つ組織としてスタートすることになりました。

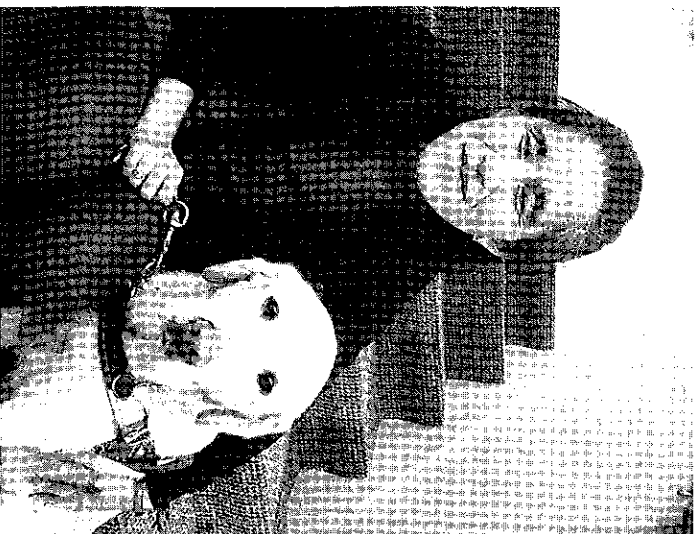
日本唯一のキリスト教プロテスタント系の点字図書館としての役割は、大変に大きなものとなりました。キリスト教の点訳書の充実、テーアライブラリー機能の拡充、さらに全国の盲信徒に向けての情報の発信など、活動が本格化します。これを、信徒たちが奉仕で手伝い、職員も一人雇用できるようになり、現在に至っています。

盲人伝道センターの初期のころを振り返って、青山牧師は「神さまのお恵みで、多くの方々のご支援がありました。本当に心から感謝しております。私たちは大変恵まれていたと、つくづく思います」と話されています。

“Comet, forward” カンザスの夕方、オフイスのある大学のビルを出て、私はこのように盲導犬コマットに声を掛けました。彼女はいつもしているように、静かに歩き始めました。来る11月(今年)の下旬で、コマットと私は8年一緒にいることとなります。私がコマットと、現在在学しているカンザス大学に来たのは、2003年の1月でした。私は今、この大学で歴史学の博士号を取ろうと毎日奮闘しています。

この大学に来た最初の頃から振り返ってみると、毎日が真に神様に支えられた日々でした。大学での勉学、教授のアシスタントとして学生たちを教え始めた頃、博士論文を書き始める前に通らなくてはならない総合試験、博士論文のための研究と資料集め、教授たちとの対話と、挙げ始めればきりのない事柄を、神様は一步一步、私と歩んで下さいました。現在私は「日本の盲人たちの歴史」について研究史を書いています。日本の盲人たちの近代史だけでも奥が深く、神様が如何に私たち盲人の歩みを導いてくださったいるのかを思わずにはられません。

日本およびアジアの障害者たちの歴史は、西側諸国のアジア史学研究者たちには、まだまだ取り上げられていない現状です。私の博士論文が、これからのアジア史研究の価値ある研究課題として、少しでも取り上



千雅子さんと盲導犬コマット

っております。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。

私の大好きな聖句は、イザヤ書41章10節から13節です。いつも神様が私たちと共にいて、励まして下さっていることを思い出させてくれる聖句です。

の多い時代、その一人として静岡盲学校に入学して来られました。ご両親は彼女が無事に成長していく中で、障害をしっかりと受け止められ、盲児としての生き方を盲学校に求めつつ、彼女の希望を全面支援し続けられました。また、盲学校でのバイブルクラス(青山牧師奉仕)、教会生活、級友たちの折り、すべてを備えて下さった主の恵みに感謝します。

「聖名の榮えと、主よ常に彼女と共にいませ」の祈りを心から重ねます。アーメン

## 千雅子さんの思い出

平野 翠姉 (小学5, 6年担任)

小学校時代の千雅子さんのことで、まず思い浮かぶのは、“盲児の宿命”と言われた算数の壁に向かった補習で頑張張り、遅れを取り戻し、「算数は面白い」と変わったこと。また、普通学校との交流学習で、「劇をやりたい」などと発言し、対等に楽しく学ぶことができたことを喜んでいましたことなどです。

千雅子さんは、全国的に未熟児網膜症による盲児

デイジー編集：服部時久

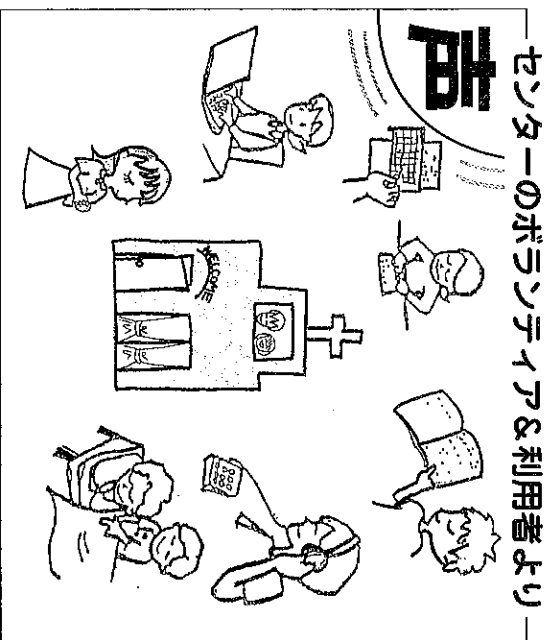
御名褒美。毎年夏休みになると、といつても学校の夏休みではなく、もうとつくに会社を退職して、サンデー毎日の生活をしている身ではありますが、センターで開催されたワークキャンプ(デイジー編集研修会)を思い出します。今年の猛暑では、図書館書庫は暑すぎてモスクワの山火事のように自然発火でもするのでは?と心配です。プロテスタント唯一の点字図書館のプライトにかけてのリフトホームや再建の要望とは裏腹に、業務経営の実情が何れ、どなたか宝くじでも当たって寄付して下さいられないかなあと、よこしまな考えかもしれません。そう折りたくなりません。次にデイジー編集において、今回センターよりお借りしていた最新鋭(購入当時)のパソコンをプレゼントしていただき非常に有難く感謝しております。元来不器用な私で、在職中のレポートなどは自筆で通してきたものですから、このような近代機器は今でも恐る恐るで、ちよつとミスをするとはパニック状態になります。しかし大事に使わせて頂きます。そして、目の不自由な方々への伝道に少しでもお役に立てばと、今後共頑張りますので、よろしくお願いします。在主。

感謝を一言 利用者：小林恒雄

私は60代の視覚障害者クリスチャンです。新潟県加茂福音キリスト教会に所属し、信仰歴は40年余りです。貴図書館を長年利用させて頂いていただいております。貴図書館を長年利用させて頂いていただいております。昨年、近藤勝彦先生の「窮地に生きた信仰」という本をインターネットでダウンロードして読み、その中の“ヨセフ物語”の説教は、私に神の恩寵の豊かさと摂理の素晴らしさを深く教えてくださり、その恵みを青年会の人と分かち合うことができ感謝でありました。「あなたがたは私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました」(創世記50：20)のみ言葉は、私の人生の励ましのみ言葉の一つとなっています。数少ないキリスト教図書館の働きがさらに祝福されますようお祈り申し上げます。

点訳ボランティア：進藤淳子

はじめまして。日本基督教団鎌倉雪ノ下教会では、教会に盲人の方が入会されたのを機に点訳奉仕を始めしております。15年程前、その点訳をなさっていた方が急逝され、私が引継ぐことになりました。1997年頃、点訳者を増やそうということで、勉強しつつ共に学ぶという形で奉仕の会を立ち上げました。最初は十数人で始めましたが、今は諸事情等で6人でやっております。最初は当時、教会主任牧師の加藤常昭先生の本を点訳しており、それも大体終わりましたので、他の方の本も手がけております。点訳したものは雪ノ下教会のホームページに掲載すると同時に、より広く活用していただく為にセンターへお送りしています。分から



ないこととはご指導いただくこともでき、感謝しております。点訳を通して求道者の方のお役に立つ事も望み、比較的初心者向けの事も点訳しています。これらを通じて盲人の方への伝道となればと願っています。

利用者：小林沙由里

主の平安。いつもセンターの図書を楽しく読ませていただいております。センターの図書には信仰の糧となるものが沢山含まれているので、お恵みをいただいております。

利用者：SSさん

「キリスト新聞」いつもありがとうございます。広告も読んでくださるので、情報が分かり、大事なものは自分のメモにして保存したり、気になるニュースは教会で交わりの時に話題にしています。

編集後記  
『ホ・ロコス』45号をお届けします。今回から紙面サイズをA4に改め、文字も少し大きくなりました。ご覧下さい(T)